

India EV Market Trend Update 2024-May



INTAGE INDIA Pvt.Ltd.

* The copyright of this report is owned by Intage India Pvt. Ltd./ Intage group.

* In the event that damages or other troubles occur to the user or a third party due to the reprint or citation, Intage India Pvt. Ltd/ Intage group shall not be liable for it.

本資料の内容

目次

会計年度別のEV販売台数	P3
FY24 全体に占めるBEV/ハイブリッドの割合	P4
カテゴリー別販売台数比較	P5
会計年度別電動2輪車販売推移	P6
メーカー別販売シェア: FY24	P7
販売台数トップ5 EVブランド: 2024年5月期	P8
ハイブリッド車の販売台数及びEV車との比較: 2024年5月期	P9
EVに関する政策の動向	P10
4輪に関する政策 AUTO PLI 概要	P11
FAME3	P12
EV関連ニュース: 2024年5月	P13

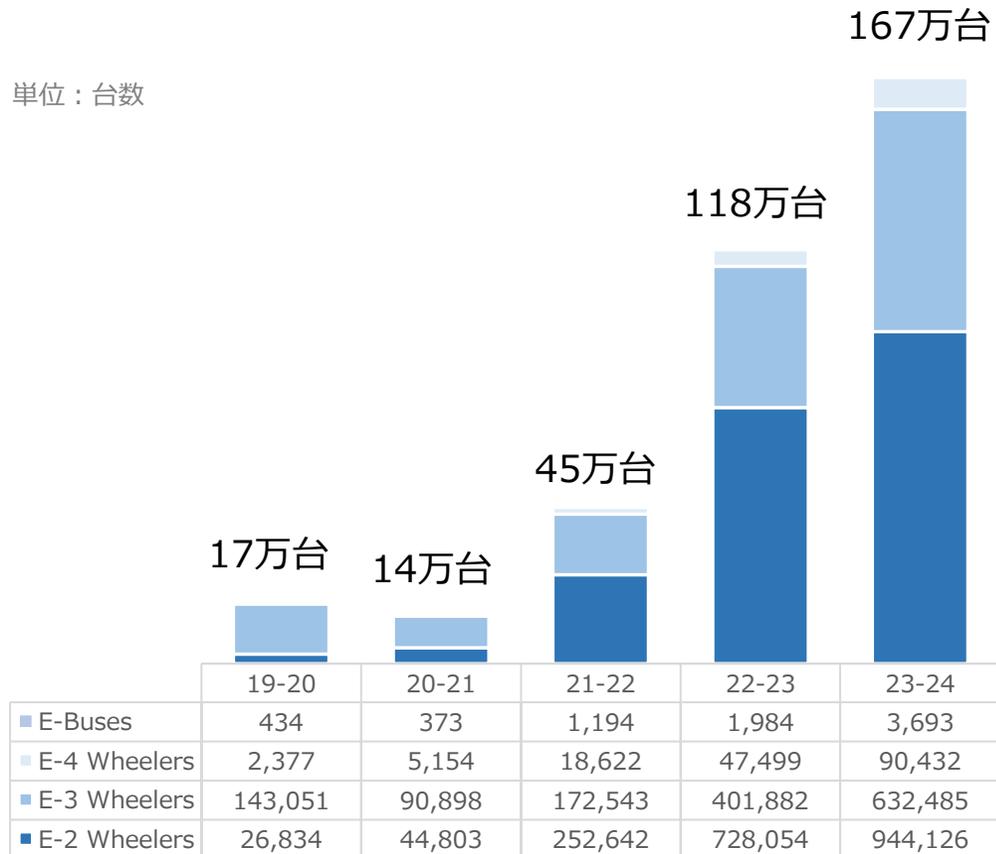
略称	用語
EV	Electric Vehicle (電動車)
ICE	Internal combustion engine (内燃機関)
FY	Financial year (会計年度)
FAME	Faster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle
EMPS 2024	Electric Mobility Promotion Scheme-2024
AUTO PLI	AUTO Production Linked Incentive

一部を除いて、2024年6月3日付で作成しております。

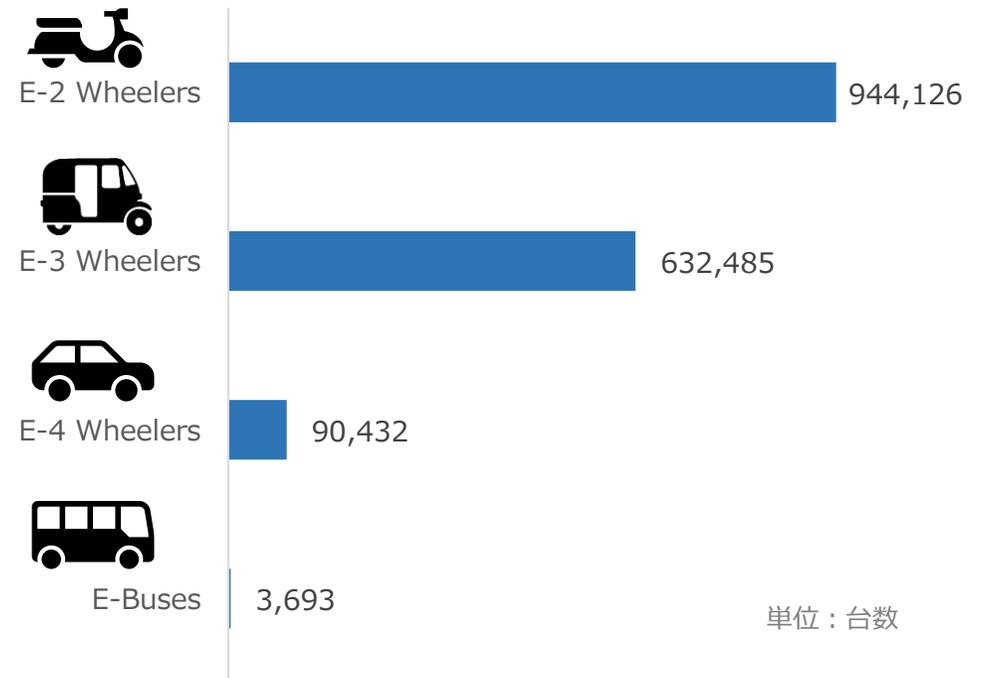
会計年度別のEV販売台数

- インドEV市場においては、2輪と3輪の販売台数が大半を占めている。ICE車より少し初期費用は高いものの、ランニングコストの差額で初期費用を回収することが可能なためと考えられる。一方で、4輪の販売台数は10万台に満たない。

会計年度別販売台数



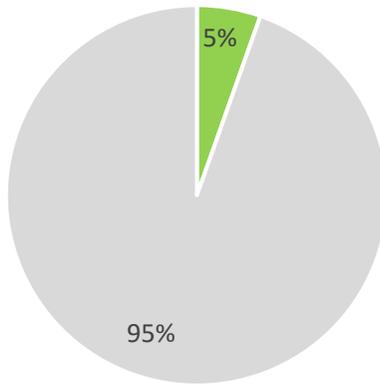
販売台数車両別：FY24



FY24 全体に占めるEV/ハイブリッドの割合

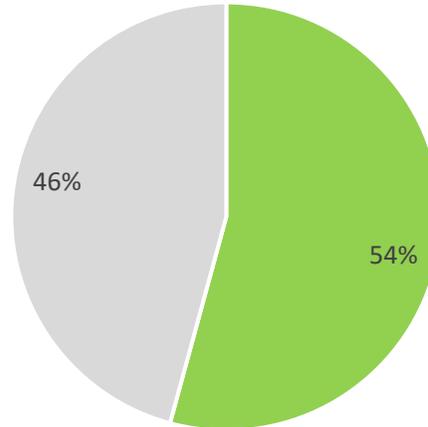
- 2-Wheelerと4-Wheelerの販売台数は上昇傾向にあるが、現時点ではガソリントップを含めた売上台数の割合では10%にも満たないのが現状である。
- 一方で、3-WheelerはEVの販売割合が50%以上となっており、EVが非常に多く販売されている。

2-Wheeler



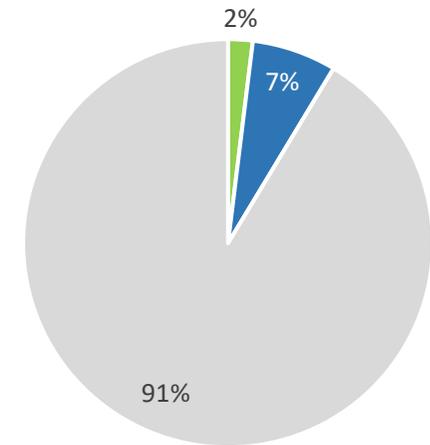
■ E-2-Wheeler ■ Other

3-Wheeler



■ E-3-Wheeler ■ Other

4-Wheeler



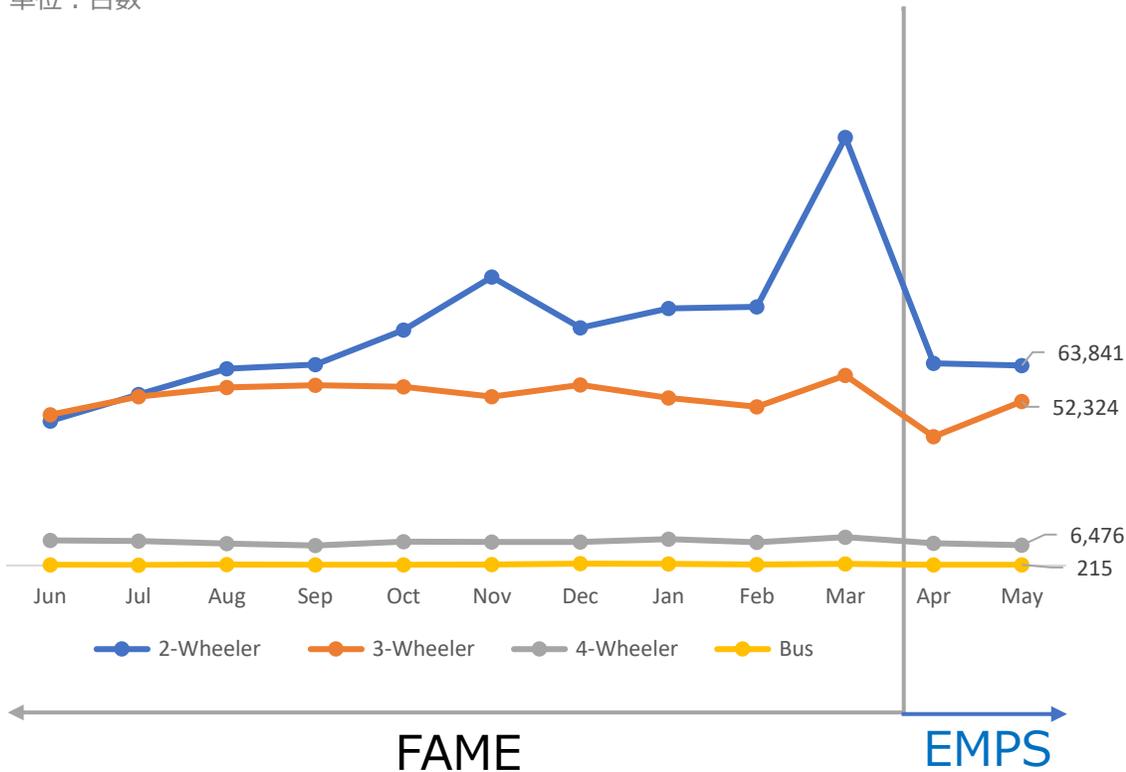
■ BEV ■ Hybrid ■ Other

カテゴリー別販売台数比較

- 2024年3月はFAME終了に伴う駆け込み需要により、特に2輪の販売が好調であった。その反動で2輪では4月の販売台数は前年をやや下回っていたが、5月は3輪以外では4月を少し下回ったものの、大きな差は見られなかった。
- 5月の前年同月比では、3輪は前年を7,000台以上上回ったが、他のカテゴリーでは昨年を下回った。

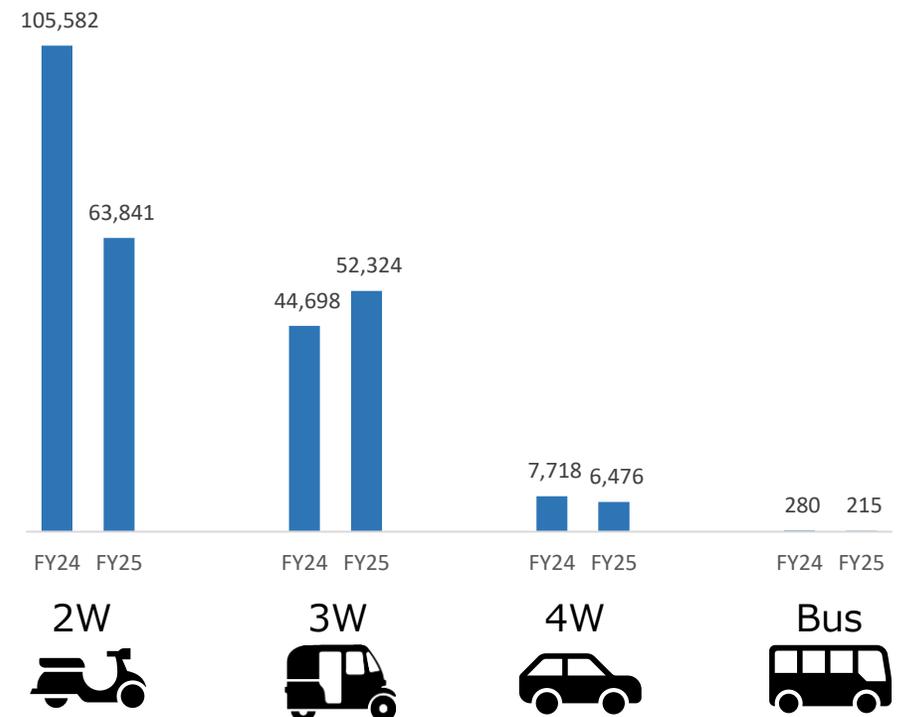
過去1年間のカテゴリー別販売台数推移

単位：台数



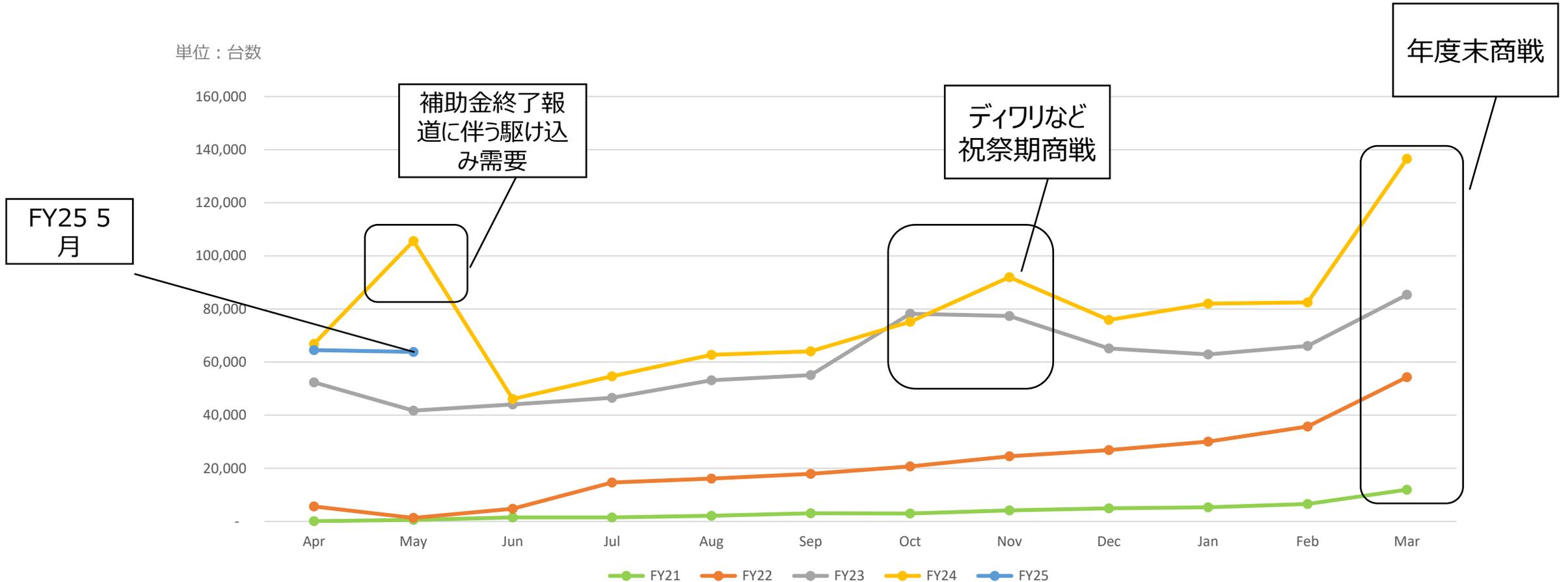
5月販売台数前年同月比：FY24 vs FY25

単位：台数



会計年度別電動2輪車販売推移

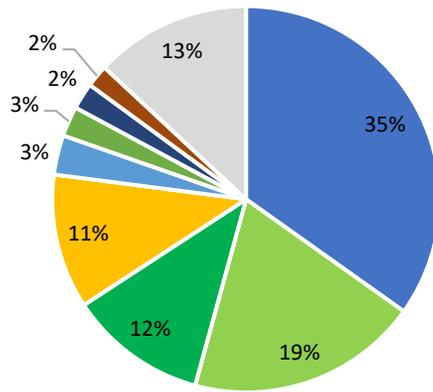
- 2輪カテゴリーは毎年販売台数を伸ばしており、FY24は一年間ほとんど全ての月で前年度を上回っている。
- インドにおける大きな商戦期は、祝祭期と年度末となっている。
- FAME2の終了からEMPSに引き継がれて2か月目であるが、去年には届かないものの2024年4月とほとんど変わらない台数が販売されている。



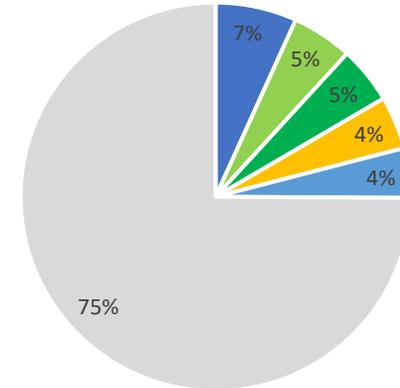
(出典) SMEV. <https://www.smev.in/statistics>

メーカー別販売シェア: FY24

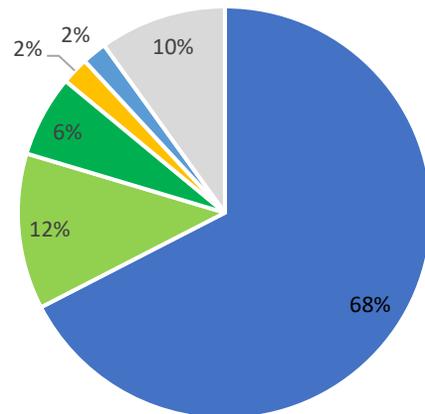
- 2輪は、OLAを筆頭にTVS, Ather, Bajajが続き、この上位4社で77%を占めている。
- 4輪は、現在ではTATAが市場シェアの3分の2を支配しており、続いてMGモーター、マヒンドラとなっている。



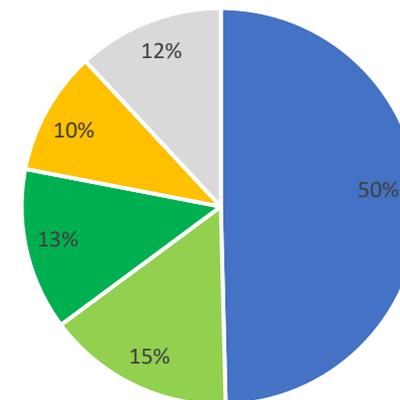
- OLA ELECTRIC
- TVS MOTOR
- ATHER ENERGY
- BAJAJ AUTO
- GREAVES ELECTRIC
- AMPERE VEHICLES
- OKINAWA AUTOTECH
- HERO MOTOCORP
- Other



- YC ELECTRIC VEHICLE
- MAHINDRA & MAHINDRA LIMITED
- SAERA ELECTRIC AUTO PVT LTD
- MAHINDRA LAST MILE MOBILITY LTD
- DILLI ELECTRIC AUTO PVT LTD
- Other



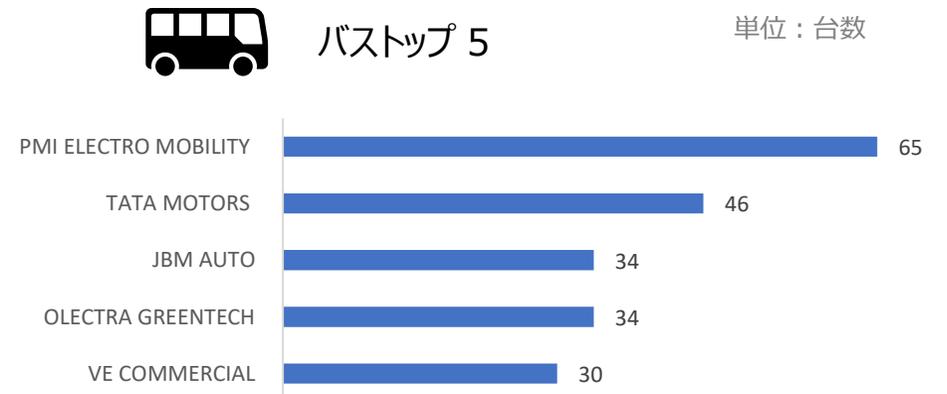
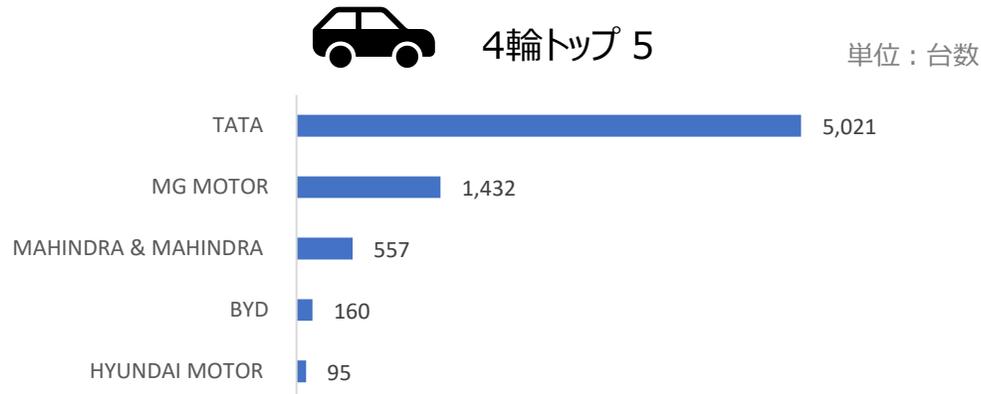
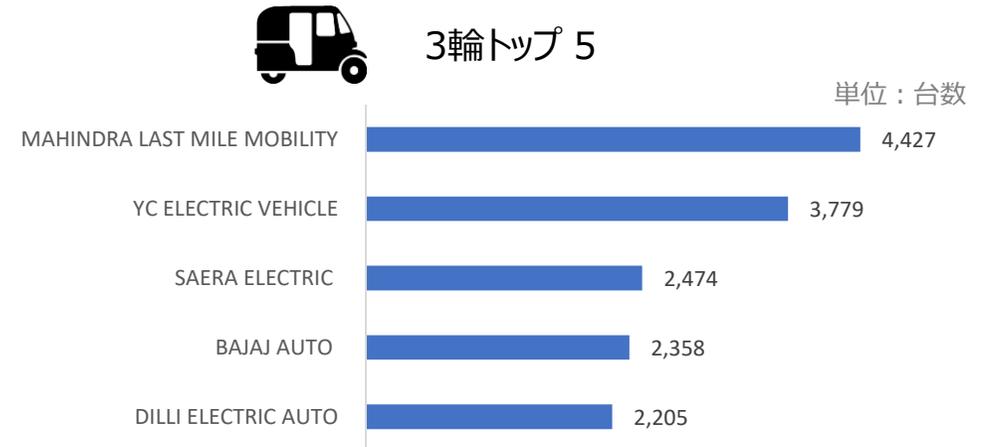
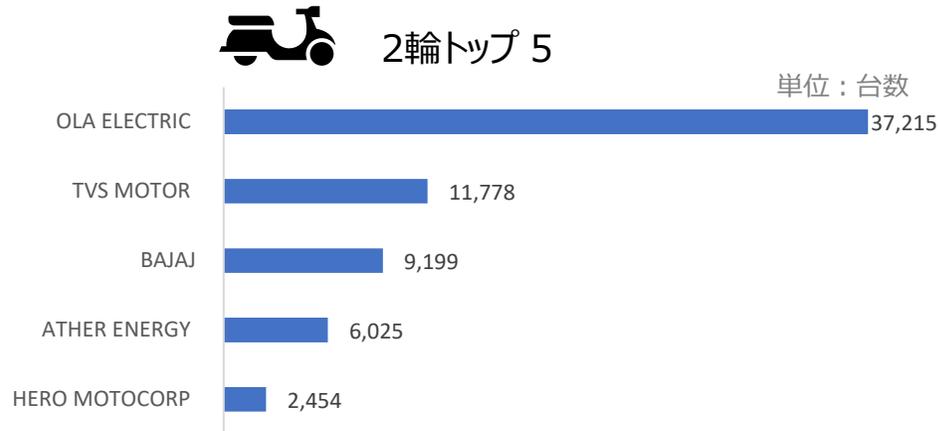
- TATA
- MG MOTOR
- MAHINDRA & MAHINDRA
- PCA AUTOMOBILES
- HYUNDAI MOTOR
- Other



- TATA MOTORS LTD
- JBM AUTO LIMITED
- OLECTRA GREENTECH LTD
- PMI ELECTRO MOBILITY SOLUTIONS PRIVATE LIMITED
- Other

販売台数トップ5 EVブランド：2024年5月期

- 2輪は、OLAが圧倒的な販売台数を誇っており、2024年5月は市場シェア49%を獲得し2輪の優位性を維持している。



※EVは、BEVのみを対象。

(出典) VAHAN. (2024年6月03日現在). <https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>
ET AUTO. https://auto.economictimes.indiatimes.com/news/two-wheelers/ola-electric-e2w-may-2024-market-share-at-49-records-37191-registrations/110614228?utm_source=branded_content&utm_medium=homepage

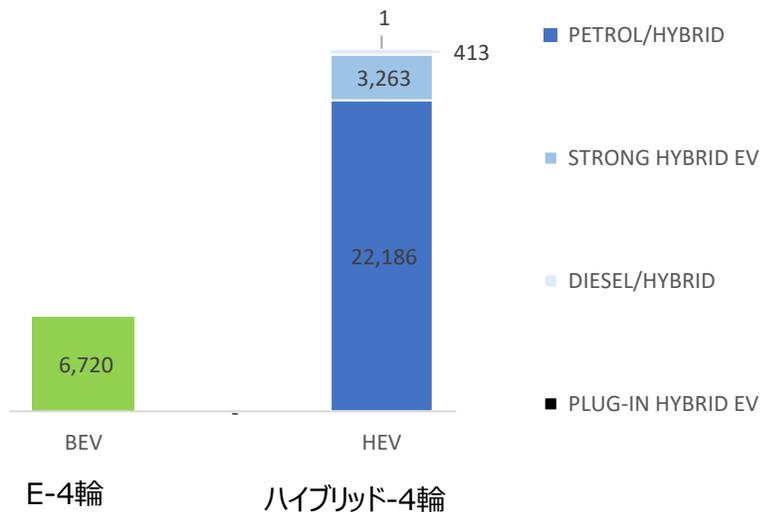
ハイブリッド車5月度の販売台数及びEV車との比較

- EVとハイブリッド車の比較では、ハイブリッド車がEV車の3倍以上の販売台数である。
- ハイブリッド車主力であるマルチ・スズキとトヨタが販売台数1位と2位であり、続いてEV主力のタタとなっている。現在のインドでは、ハイブリッド車が主流である。

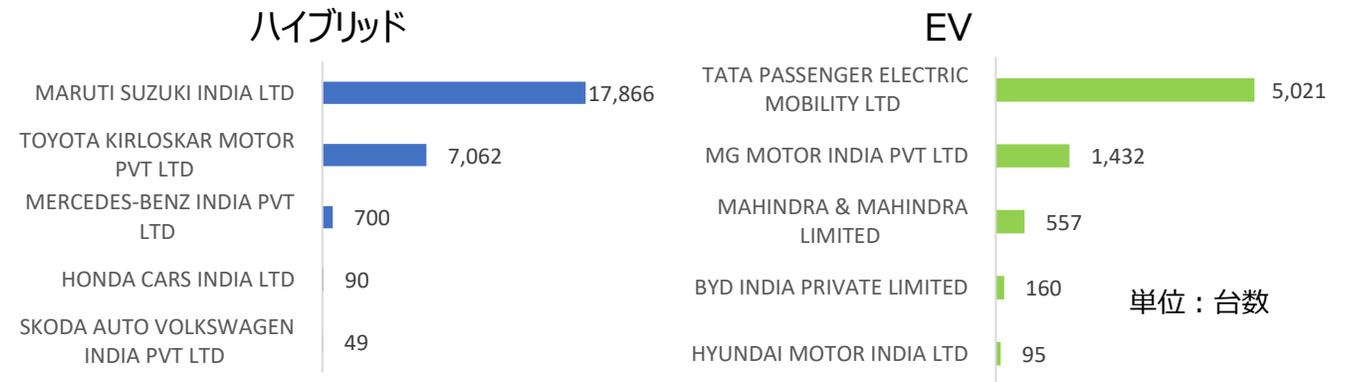
EVとハイブリッド販売台数比較

合計販売台数： 33,689 台

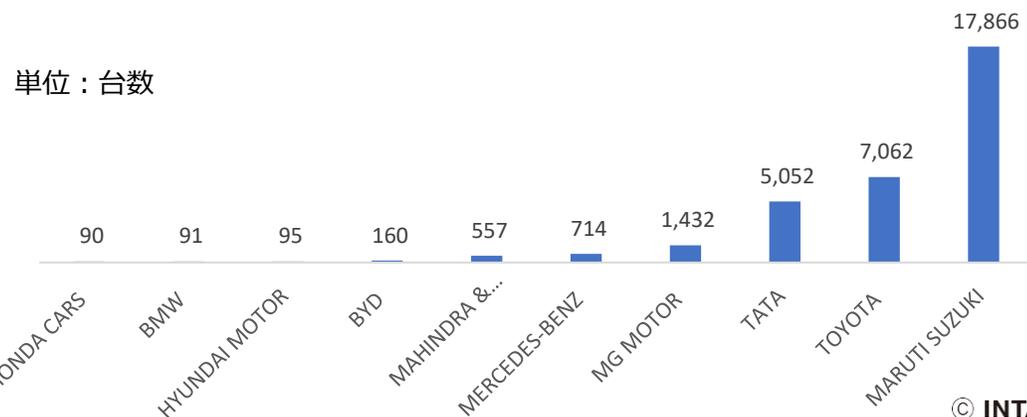
単位：台数



メーカー別EVとハイブリッド販売台数比較



メーカー別EVとハイブリッド合計販売台数比較



※ハイブリッドは、ディーゼルハイブリッド、ペトロールハイブリッド、プラグインハイブリッド、ストロングハイブリッドを含んでいます。

(出典) VAHAN (2024年 6月03日現在).
<https://vahan.parivahan.gov.in/vahan4dashboard/vahan/view/reportview.xhtml>

EVに関する政策の動向

- 2023年3月31日付でFaster Adaptation Manufacturing of Electric Vehicle (FAME 2) が終了し、4月1日より政府主導のもと新しい政策 Electric Mobility Promotion Scheme-2024 (EMPS 2024) が開始された。
- FAME 2では、3年で計画され（最終的には5年）、2輪・3輪だけではなく4輪・バスも対象であり、1,000億ルピーの予算が投下された。一方で、EMPS2024では、4か月間の実施で、予算も50億ルピー、対象のEVカテゴリーは2輪と3輪だけの予定である。
- 4輪とバスについてはすでに実施されている、Auto PLIとPM-eBus Sewa Schemeで支援が継続されるとのことである。

	FAME 2	EMPS 2024
実施期間	<ul style="list-style-type: none"> • 3年（最終的には5年）(2019年4月1日 - 2024年3月31日) 	<ul style="list-style-type: none"> • 4か月 (2024年4月1日 - 2024年7月31日)
予算	<ul style="list-style-type: none"> • 1,000億ルピー (最終的には, 1,150億ルピー) 	<ul style="list-style-type: none"> • 50億ルピー (内、33億3,300万ルピーが、2輪に当てられる。)
対象車種	<ul style="list-style-type: none"> • e-2輪, e-3輪, e-4輪 Strong Hybrid 4W, e-Buses 	<ul style="list-style-type: none"> • e-2輪 ・ e-3輪
消費者向け補助金額	<p>購入補助金額</p> <ul style="list-style-type: none"> • 10,000ルピー/kWh バスを除くすべての車種 • 20,000ルピー/kWh バス <p>最大補助金額目安</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2輪：20,000ルピー • 3輪 (e-リキシャーを含む): 50,000ルピー • 4輪：上限なし。ただし、工場出荷額の150万ルピーまで。 	<p>購入時補助金額</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5,000ルピー/kWh for e-2輪 ・ e-3輪 <p>最大補助金額</p> <ul style="list-style-type: none"> • 2輪: 10,000ルピー • E-リキシャー ・ e-カート: 25,000ルピー • E-3輪 (L5 カテゴリー): 50,000ルピー
メーカー向け補助金	<ul style="list-style-type: none"> • メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> • メーカーは販売奨励金として、払い戻しを受ける。
国内製造要件	<ul style="list-style-type: none"> • 製造の国内化 • Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。 	<ul style="list-style-type: none"> • 製造の国内化 • Phase manufacturing Program (PMP) が適用される。少し変更有。
充電ステーションの設置	<ul style="list-style-type: none"> • 充電ステーションの設置支援 	<ul style="list-style-type: none"> • 計画されていない。

(出典) Ministry of Heavy Industries
<https://heavyindustries.gov.in/sites/default/files/2024-03/emps-2024.pdf>
https://fame2.heavyindustries.gov.in/content/english/11_1_PolicyDocument.aspx

4輪に関する政策 AUTO PLI 概要

- EV完成車メーカー・先進部品メーカーを対象にした生産連動型補助金のスキームとなっており、インセンティブ率などが異なる。

項目	OEM向けインセンティブスキーム	コンポーネント企業向けインセンティブスキーム
対象製品	<ul style="list-style-type: none"> 電池電気自動車完成車 水素燃料電池車完成車 	<ul style="list-style-type: none"> 先進の自動車技術を使った部品 CKD/SKDキット 車両アグリゲート
条件	<p>OEM</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：1,000億ルピー 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 3,00億ルピーの投資。 最低国内新規投資条件あり。 	<p>部品</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバルグループ収益（自動車および/または自動車部品製造による）：50億ルピー 投資：当社またはそのグループ会社による固定資産(総額) 15億ルピーの投資。 最低国内新規投資条件あり。
インセンティブ率	<ul style="list-style-type: none"> 販売額の13~16% 	<ul style="list-style-type: none"> 販売額の8~11%
追加インセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> 累計1,000億ルピー超で+2% 	<ul style="list-style-type: none"> 累計125億ルピー超で+2% 電気自動車/水素燃料電池車向けに+5%
その他条件	<ul style="list-style-type: none"> 国内付加価値50%以上 翌年以降10%以上の売上げが必要 	

FAME 3

- FAME3は新政権発足後、100日以内での展開可能性が高い。

現在報道されているFAME3案

項目	FAME3 計画案
予算	1,000億ルピー
期間	2年（FAME 2 は5年）
対象	<ul style="list-style-type: none">• 電動2輪• 電動3輪• バス• 4輪に関しては、電気自動車の対象範囲となるかは審議中。一方で、ハイブリッド車は対象となる可能性が高い。
認証	FAME3は新スキームとなるため、再申請が必要になる。

(出典) ET AUTO. https://auto.economictimes.indiatimes.com/news/passenger-vehicle/fame-3-likely-to-be-rolled-out-soon-with-inr-10000-cr-outlay-with-support-for-hybrids-but-not-e-cars/110517596?utm_source=top_news&utm_medium=tagListing

EV関連ニュース:2024年5月

● 現代クレタEV9月にローンチ予定

韓国大手の現代モーターズ（Hyundai）は、人気車種であるクレタのEVモデルを9月にローンチする予定で、クレタEVは、45kWhのバッテリーを搭載し、航続距離は450km近くになると予想されている。また、レベル2の先進運転支援システム（ADAS）、10.25インチのタッチスクリーンシステム、360度カメラ、Apple CarPlay、ベンチレーションシートなども搭載される予定だとしている。価格は、200～250万ルピーになると予想されている。

<https://news24online.com/auto/hyundai-creta-ev-set-to-revolutionize-electric-vehicle-market-in-india/273629/>

● インドのEV普及率は2030年までに15%になると予測：BNPパリバ

仏金融大手のBNPパリバは、インドにおける電気乗用車の普及率は2030年までに15%になると予想している。「インド自動車市場のリーダーである現代、タタ、マヒンドラがEVモデルを投入し、マルチスズキが参入の可能性があることから、2025年は業界にとって非常に重大な年になると考えられる。」と言及している。[India EV penetration to be 15% by 2030: BNP Paribas - The Hindu BusinessLine](https://www.thehindubusinessline.com/news/india-ev-penetration-to-be-15-by-2030-bnp-paribas/)

● 現代高速EV充電ステーションを設置。

自動車メーカーの現代モーターズは、タミル・ナードゥ州に180kWhの急速充電ステーションを設置した。加えて、今後100カ所の電気自動車（EV）急速充電ステーションを設置すると発表した。150kWと30kWのコネクタで構成される180kWのDC急速充電ステーションは、スパンサープラザに設置されており、ブランドやモデルに関係なく互換性のある四輪車に対応する予定だという。<https://www.telegraphindia.com/business/hyundai-motor-india-sets-up-ev-charging-station-in-chennai-plans-100-facilities-across-tamil-nadu/cid/2022757>

● 起亜は4つ目のEV車EV3をリリース。インドでは2025年予定

起亜自動車は4番目の電気自動車EV3を発表した。まずは、国際市場での販売を想定し、2025年にはインドでも発売される見通しである。

<https://economictimes.indiatimes.com/industry/renewables/kia-unveils-its-4th-electric-car-the-ev3-expected-in-india-next-year/articleshow/110383440.cms?from=mdr>

● 印マヒンドラEV向けに1,200億ルピーをFY27までに投資へ、ICEエンジンも投資対象。

インドの大手自動車メーカーであるマヒンドラ＆マヒンドラ社は、今後3年間で1,200億ルピーを投資し、さらにEVの開発を拡大するようである。また、従来のICEエンジン事業にも1400億ルピーの大規模な設備投資を計画している。

[Mahindra to invest ₹12000 crore in EV business till FY27, remain aggressive on IC-engine biz \(msn.com\)](https://www.msn.com/en-in/news/india/mahindra-to-invest-12000-crore-in-ev-business-till-fy27-remain-aggressive-on-ice-engine-biz)

● 独メルセデス3,300万ルピーで、Mercedes-AMG S 63 E Performanceをローンチ。

メルセデス・ベンツは、インドでSクラスのフラッグシップモデルとして、新型AMG S 63 Eパフォーマンスを3,300万ルピー（税別）でローンチした。プラグインハイブリッド4.0リッターV8エンジンを搭載し、インドにおけるメルセデスのプラグインハイブリッド車としては、GT63 S E Performanceに次いで2車種目となる。

<https://www.autocarindia.com/car-news/mercedes-amg-s63-e-performance-launched-at-rs-330-crore-431661>



Create Consumer-centric Values

お客様企業のマーケティングに寄り添い、共に生活者の幸せを実現する

Contact

info-india@intage.com